

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	港区白金 3-10-12
園名	みなと保育サポート白金

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

物をたたくことが好きな乳児の特性から、体感できる楽器等を使い、様々な音に触れ、聴覚やリズム感、運動能力を育み音に対しての探求心を深めていく活動とするため

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

## 2. 活動スケジュール

※月に1回専門講師を招致し講師によるプログラムを実施した。職員メインの活動の中でも、共に計画しながらアドバイスを受け、学びとした。

8月：フレイムドラム（講師）・オーシャンドラム（職員）

9月：タンバリン（職員）・オーガンジー（講師）

10月：オノマトペビンゴ(講師と園内探検)・普段遊んでいる乳児クラスの音の鳴る玩具（職員）

11月：ウッドブロック（講師）・たまごシェイカー（職員）

12月：お楽しみ会練習・トライアングル（講師）

1月：大判オーガンジー（職員）・レインスティック（講師）

2月：レインスティック（講師・職員）

3月：和太鼓（講師・職員）・今までに使った打楽器すべてと、木琴による合奏（職員）

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・トライアングル打楽器セット→12月の活動で使用
- ・スズキウッドブロック→11月の活動で使用
- ・子ども用和太鼓→3月の活動で使用
- ・タンバリン→9月
- ・ゼンオン鍵盤ハーモニカ、卓奏用パイプセット、音の鳴る玩具(園の玩具)

- ・ フレームドラム(専門講師持参)
- ・ オーシャンドラム(専門講師持参)
- ・ オーガンジー(専門講師持参)
- ・ たまごシェイカー(専門講師持参)
- ・ レインスティック(専門講師持参)
- ・ 卓上木琴→ (3月の合奏で使用)

環境の設定：毎回、記録用としてデジカメと、ビデオカメラで様子を撮影した。（懇談会にてダイジェスト版を作成し、保護者に展開したところ好評価を頂いた）

電子ピアノを前に設置し、メインとなる講師や職員がそこから活動を開始した。

いつもどおりの、集まり方をし（コーナーマットを敷いて座る）安心して活動に参加できるようにした。

気分の、のらない子や泣いてしまう乳児に対しては、無理せず離したり、距離をとった中で様子を見守るようにした。（少しずつ参加できるようになった。）

#### 4. 探究活動の実践

##### 【0～5 歳児実施分】

問いを考える：たたくとどうなるかな？どんな音がするかな？と保育者が投げかけ興味を誘い、実際に触れたり、たたいてみようとする

探究活動の様子：様々な楽器の使い方を知り、「どんな音がする？」という問いかけに「あめのおと」「たいこのおと」などと応えながら音を鳴らして楽しんだ。園内探検という活動では、オノマトペビンゴカードに描かれている物を探し、見つけたら実際に動かして音を鳴らしてみた。普段目にするものではあるが、「こんな音がするんだ」という気づきもあった。年末お楽しみ会で発表する合奏の練習も兼ねて、約3名ずつに分かれて前に出て、ピアノに合わせて楽器を鳴らした。レインスティックでは、二人一組になって端と端を持ち、保育者の援助を受けながら交互にレインスティックを傾けて、鳴る音を楽しんだ。ピアノの強弱を聞き分けて楽器の鳴らし方を変えていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：自園では、専門講師を招致しているプログラムを行っていなかったもので、月に1回専門講師を招致し活動を実施することが子どもたちにとっては新鮮だった。初めは緊張気味の子ももいたが、日々の保育の中でも保育者が活動を実施することを続けていくうちに毎回楽しんでいる様子が見られた。初めて見る楽器にも興味を持ち、「やりたい！」と意欲的だったので、職員が名前を呼んで順番にできるようにした。

5. 活動の様子が分かる写真





## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	港区白金 3-10-12
園名	みなと保育サポート白金

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然と食べ物

<テーマの設定理由>

実際に野菜に触れ、食についての興味関心を深めるため。食の大切さを知ったり、健康な体と心について学んでいくきっかけ作りとする。

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

### 2. 活動スケジュール

月に1回、専門講師（栄養士、調理士）による活動を実施した。職員主体の活動の時も、実際の調理や企画などアドバイスをうけながら、安全に衛生的に行った。

8月：とうもろこしの皮むき（保護者、兄弟参加イベントを行いながら今年度のすくわく活動の実施を伝達した）・きゅうりの塩もみ

9月：なすの色水遊び・バナナスコーン

10月：小松菜スタンプ・さつまいもごはん

11月：かぼちゃパン・きのこ汁

12月：親子トライフルケーキ（保護者参加）・みかんで実験

1月：味噌おにぎり・味噌作り

2月：にんじんクッキー・白菜の味噌汁

3月：卒園お別れクレープ会（保護者参加）・「今年度使用した全野菜」を使ったスタンプでバッグ作り

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・とうもろこしなど季節の野菜(食育活動で使用)、食育食材(大豆、麴) ・調理器具(ザル、ボウルセット) ・調味料・プラカップ・ラップ・ジップロック・クッキングシート
- ・炊飯器→さつまいもご飯・味噌おにぎり
- ・フライパン→みかんあぶり出し・味噌おにぎり
- ・クレープメーカー、クレープミックス、クレープ袋→クレープ作り
- ・ホットプレート→バナナホットケーキ
- ・オーブンレンジ→クッキー、パン作り
- ・「? (はてな) ボックス」(ダンボールで作成)→その日のメイン野菜を触って感じる
- ・今日のPOPを毎回作成した。
- ・IH ヒーター(調理に使用)
- ・スクリーン、プロジェクター(保護者に活動の様子を共有する為に使用、懇談会 2 回で上映) ・記録用 SD カード
- ・デジタルカメラ(活動の記録の為)
- ・カッティングマシン(園内掲示、POP 作りに使用)
- ・食育絵本(活動開始時に導入として使用)
- ・食育紙芝居 ・紙芝居用舞台
- ・「? (はてな) BOX」の作成

#### 環境の設定

- ・子ども用エプロン、スマック、三角巾を用意し、衛生的かつ食育活動の雰囲気盛り上げた。
- ・食育ポイントが書いてあるPOPを使い、子どもでも分かりやすい野菜果物の知識を伝えた。その後、POPは掲示し保護者にお知らせした。

### 4. 探究活動の実践

#### 【0~5 歳児合同実施】

問いを考える：毎回「? (はてな) ボックス」の中に今日のメイン野菜、果物を用意し、手触りからその感触を味わった。幼児の子どもたちは、知ってる野菜の名前を答えたり、「大きい、小さい」「丸い、つるつる」等と感触を伝え、興味をもった。実際に見て触れて、髭や皮の形や(とうもろこし)、色・匂い等に関心をもてるような言葉かけからスタートした。とうもろこしの皮むきは、経験のない子どもも多く楽しんで挑んだ。

野菜や果物を洗い、ちぎったり、むいたり、その感触や形状を知る。

活動の中で、つぶしたり、もんだり、様々な体験を行った。

自分が調理に参加した、野菜や果物で作ったスープやおやつを、喜んでおいしく食べることができた。

探究活動の様子：毎回、その日に使う野菜が入った「?(はてな)ボックス」に手を入れて、何の野菜が入っているか、感触はどんな感じが、形はどうか、などと問いかけた。

「つめたい」「かたい」「おおきい」などといった反応があった。さらにPOPを用いて講師や保育者から野菜の話を聞いた。

サツマイモがテーマの日は、保育者が制作したサツマイモと畑を使用して、数人に分かれて「よいしょ！よいしょ！」の掛け声で芋ほり体験をしたり、みかんがテーマの日は、模造紙や段ボールで制作したみかんの木に本物のみかんを付けて、みかん狩り体験をしたりした。ふりかえり(保育士の気付き)：様々な野菜に触れたり、断面を見たりする機会は少ないと思うので、貴重な経験になったのではないかと思う。保護者に、食育活動で食べたものを伝えると「家では食べないので驚いた」という返答が返ってくるが多かった。実際に自分で皮を剥いたり、つぶしたり、混ぜたりした経験が野菜への興味や食べる意欲に繋がったのではないかと思う。曜日固定ではなかったため、参加する子どもに偏りなく活動ができたので良かった。

## 5. 活動の様子が分かる写真





